

福知山市立学校教育内容充実推進プラン
(令和3年度～令和7年度) [概要版]

『響』プラン・F

【ひびきプラン・F】



**Develop the Ability
of Children
in Fukuchiyama plan**

～ 教育を尊ぶ気風の中で
福知山の子どもの**可能性を伸ばす教育** ～

福知山市教育委員会

はじめに

新「教育のまち 福知山」の構築に向けて ～ 福知山市立学校教育内容充実推進プラン（『響』プラン・F）の意義 ～

AI時代と呼ばれる人工知能による技術革新の波は、これからの世界、わが国の社会状況を、これまでとは、大きく違うものに様変わりさせ、専門的な知識や技能を必要としない労働は、消失し、人としての労働は、創造的な「クリエイター」としての仕事のみにまとめられ収縮していくともいわれています。

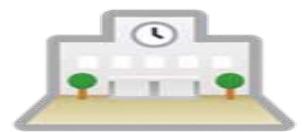
これからの時代を生きる子どもたちは、「正解のない問いに満ちた世界」をたくましく生きる力が求められます。さらに様々な価値観があふれる社会の中で互いに人権を尊重し多様な人々と共に生きる力が必要となります。

福知山市では、ここ10年にわたって本市の教育の方向を示してきた「市立学校教育改革推進プログラム」終了後の福知山の教育を考えるにあたり、新「教育のまち 福知山」の構築を掲げ、「子どもの将来を見据えて、教師が学びの場をつくり、子どもたちが主体となって学びあい、家庭や地域社会が学びを支え、市が学びを応援し、市の子どもは市が育て上げる。」という理念のもと、本市の教育目標である「自分のために 人のために 社会のために 共に幸せを生きる人材の育成」[教育によって学んだことを、自分の幸せや夢の実現のため（自己実現）に生かすだけでなく、人のために（他者貢献）、社会のために（社会貢献）活かそうとする志を持つ市民を育て上げる。]の具現化に向け、21世紀の社会を見据え新たな課題に対応できる期待される人材像を明確にした新たな教育計画「福知山市立学校教育内容充実推進プラン」を策定し、新たな教育の創造に取り組めます。

私たちは、すべての子どもたちには、必ずその子どもなりの「よさ」があると信じています。（人権尊重の精神）子どもたちに潜在する見えないもの（可能性）を見えるようにし伸ばす教育を推進します。『教育のまち福知山』（教育を尊ぶ気風のあるまち）にあって、福知山市の子どもたちが「自分のよさ」に磨きをかけ、その強みによって自己実現し、ふるさと福知山をはじめ、さまざまな世界で活躍（他者貢献・社会貢献）できる人材の育成を目指していきます。

福知山市教育委員会

これからの目指す子ども像



1 福知山市の子どもに付けたい資質・能力

本市のすべての子どもたちが互いの人権を尊重し、自らの可能性を自認し努力することで、変化の激しい社会の中で自立して生きていくとともに、主体的に社会とかかわり、自らだけでなく他者にも貢献し、さらには、社会を発展させていくために必要な資質や能力をその発達段階に応じて適切に身に付けた子どもの姿を理想として掲げます。

前計画である「市立学校教育改革推進プログラム」で示した『めざす子ども像』を引き継ぎながら、自他を尊重し互いに知恵を出し合って困難な課題を解決していく力を育成するために、新たな身に付けてほしい6つの資質・能力として再構築しました。

めざす子ども像【身に付けてほしい6つの資質・能力】

- ① **ふ** るさとを愛する子《郷土愛》
郷土福知山の文化・伝統を大切にすると共に多様性を尊重し、
他の地域と積極的に関わろうとする心 **〔地域性〕**
- ② **く** ふうする子《自立・創意工夫》
自分で課題を見付け、もっとよい方法がないかと工夫する力 **〔時代性〕**
- ③ **ち** えをみがく子《探究》
物事を深く考え真理を追究し新しいものを生み出そうとする態度
〔時代性〕
- ④ **や** さしさと思いやりのある子《思いやり・貢献》
自分も友達も大切にでき、相手や社会のために行動できる力 **〔普遍性〕**
- ⑤ **ま** じめにみんな **の** ためにがんばる子《協働・継続》
みんなのために努力し働ける粘り強さ **〔普遍性〕**
- ⑥ **こころ** ざしをもって努力する子《希望・展望》
夢や志を持って自らの目標に向かって進む力 **〔普遍性〕**



2 付けたい力を意識した子どもを育てる視点

本市が目指す理想とする子どもの姿を実現するためには、基礎的基本的知識・技能を確実に習得させ、それを活用して新たな課題に取り組む力を育成しなくてはなりません。そのためには、日常の子どもたちの行動について、付けたい力を意識した視点によるアプローチが必要となってきます。

特に近年、その重要性が指摘されている「非認知能力」（テストや試験では、測ることのできない生きていくために必要な力）の以下3点については、具体的な個々の資質や能力を獲得するために必要不可欠な基盤となる力と位置付けています。

◇付けたい力（見えない力をみる：非認知能力の重視）

- ① 目標に向かって努力する力
- ② 人とうまく関わる力
- ③ 感情をコントロールする力

◇実現したい具体的な姿

1 一人でできる

- ① 自分のよさ（好きなこと・やりたいこと・持ち味・長所・得意・強み）を知り伸ばす。
- ② 自分なりの意見を持ち、表現できる。
- ③ 自分で考え正しく判断する。



2 みんなとできる

- ① 友達のよさ（持ち味・長所・得意・強み）に気付ける。
- ② 互いを尊重し、協力・協働できる。
- ③ 話し合い、より良いものに集約できる。



3 深く考える

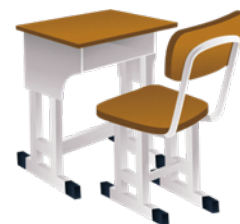
- ① 選択肢を考え、比較し選ぶことができる。
- ② 自分の考えやグループの考えを多角的に考察し整理しまとめることができる。
- ③ 根拠を見付け、判断に生かしたり、説明したりできる。

4 目標に向かって頑張る（可能性を伸ばす）

- ① 目標を立て努力することができる。
- ② できること得意なことを増やし伸ばすことができる。

5 挑戦し粘り強く取り組む

- ① 困難なことにも挑戦することができる。
- ② あきらめず最後までやりきることができる。



【シームレス学園構想（保幼小中一貫・連携教育） における発達段階別：学びの工夫】

幼 児 期

（学びの基礎期 ◆ 体験しながら学ぶ）

小 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4

（基礎充実期 ・ ・ 学び方を身に付ける）

小 5 ・ 6 ・ 中 1

（展開期 ・ ・ 共に学ぶ）

中 2 ・ 3

（発展期 ・ ・ 自分を磨き夢を広げる）

『響』 プラン・F

～教育内容のさらなる充実を目指して～



ふるさと福知山を愛する「郷土愛」に包まれ、不易の価値である「人権尊重」を基盤として「時代の要請」に応える教育を推進していきます。「市立学校教育改革推進プログラム」によって、本市の教育の方向を示し、「シームレス学園構想（保幼小中一貫・連携教育）」具現化に向け取り組んだこの10年間で、「学校の適正規模・適正配置」については、大きく前進し、このプログラムの環境整備、基盤整備（ハード面）としての役割は、ほぼ終えることができました。しかし、「教育内容の充実」については、まだまだ、さまざまな教育課題が山積みであり、これからの本市の教育を考え方向を示すためには、教育内容（ソフト面）を中心とした新たな計画が必要となります。変化の激しい時代に対応するため、5年周期で検証する「福知山市立学校教育内容充実推進プラン」として新たな計画を策定し、教育内容のさらなる充実に取り組んでいきます。

また、本プランでは、これからの時代をたくましく生きる人材を育成するためには、一人一人の子どもが「自分のよさ」を見付け、それを自らの可能性として自覚し、その特性を伸ばす環境の中で「知」「徳」「体」をバランスよく育み、自ら学び考え行動できる力を培わなくてはならないと考えています。そのためには、「普遍性・地域性・時代性」の3要素を意識した教育内容を充実させることが求められます。

1 教育内容充実推進プランの5つの目標と8つの基本方針 (本プランの3要素： 普遍性・地域性・時代性)

◆目標1 子どもの力を向上させます

○方針1 夢と志をもち、可能性に挑戦するために必要になる力を育成します。 [普遍性] [時代性]

○方針2 郷土愛をもち、地域や社会の持続的な発展に寄与し、牽引するための多様な力を育成します。 [地域性]

○方針3 子ども一人一人を大切にし、様々な体験や経験を重視しながら、学習意欲やよいところ、その能力を引き出し、それぞれの可能性を伸ばす指導を徹底します。

[普遍性] [時代性]

◆目標2 学校・教職員の力を向上させます

○方針4 誇りや使命感をもち、子ども、保護者、地域から信頼される教職員を目指します。 [普遍性]

○方針5 教職員全体のマネジメント能力の向上により学校の『チーム力』を高めます。 [時代性]

◆目標3 開かれた学校をつくります

○方針6 地域との連携を深め、保護者や多様な地域人材の支援・協働により、地域参画型の多様な学校を目指します。 [地域性]

◆目標4 連携により家庭、地域の教育力を高めます

○方針7 家庭・地域・学校が連携・協働し、それぞれの役割と責任を再確認するとともに、その役割を果たすことで、子どもの成長を支えます。 [地域性] [時代性]

◆目標5 現場に近いところで支援・指導を行う教育行政にします

○方針8 『現場主義』で保護者・地域の期待に応えられる教育行政の実現に取り組みます。 [地域性]

2 シームレス学園構想の一層の充実（3タイプの学校形態を生かして）

3タイプの学校形態

→施設一体型（夜久野・三和・大江）

施設一体型の強み（9年間の成長を全職員で確認することができる）を生かし、日常的に小中学校の教師が連携し児童生徒を見守ること、小学校における教科担任制を取り入れて教科指導を充実させることなど、特色のある小中一貫・連携教育を行います。

→1小1中分離型（六人部・川口）

中学校ブロックで近隣に位置する1小学校と1中学校の強み（連携のしやすさ）を生かし、小中学校の教師の兼務発令によって、教科指導を中心に、より緊密な連携による小中一貫・連携教育を行います。

→複数小1中分離型（桃映・南陵・成和・日新）

中学校ブロックで複数の小学校と1中学校の連携のもと、小小連携、小中連携を充実させ、集団の大きさを生かしながら、小学校から中学校へのスムーズな移行を大切にした小中一貫・連携教育を行います。

（1）確かな学力の充実・向上

子どもたち一人一人に確かな学力を身に付けさせ、それぞれの希望する進路実現にむけ、主体的で対話的かつ深い学びのある授業をめざし、授業改善と指導の工夫に取り組みます。また、その中で思考力や感受性を支える「言葉の力」の育成にも力を入れると共に、家庭との連携を強化し家庭学習（自学自習）の習慣化に向け継続して支援していきます。さらに、学校のICT環境整備に対応し、ICTを活用した学習活動を積極的に研究・導入し、新しい学びを実現します。

特に「福知山ならではの教育」を目指し、『授業づくりは人づくり』のコンセプトのもと、すべての教育活動を整理統合し「授業づくり」に焦点化して取り組みます。その中で指導の一貫性や系統性・関連性を明確にしながら指導の効果性や有効性（子どもの可能性を伸ばす指導力）を高めます。

「学校教育の重点・福知山授業づくりメソッド」※別紙参照

【授業改善の5つの視点】



① 基本的な授業のベースづくり

全市的に授業の基本スタイルを示し共通化を図る。付けたい力を明確にした「めあて」から「振り返り」までの一貫した指導形態

② 主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。

③ 対話的な学び

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、経験や知恵を手掛かりに考えること等を通じ自己の考えを広げ深める。

④ 深い学び

習得・活用・探究という過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。

⑤ ICT の効果的な活用

◇学習指導の準備と評価のための教師による ICT 活用

◇授業での教師による ICT 活用

◇児童生徒による ICT 活用

授業の中での効果的な ICT 活用のねらいとしては、(1) 学習に対する児童生徒の興味・関心を高めること、(2) 児童生徒一人一人に課題を明確につかませること、(3) わかりやすく説明したり児童生徒の思考や理解を深めたりすること、(4) 学習内容をまとめる際に児童生徒の知識の定着を図ることの4点

(2) 子どもの力を伸ばす生徒指導

なりたい自分をイメージし自分をよりよい方向に導く「自己指導力」を意識すると共に、所属感をもって仲間と共に成長できる環境づくりを大切にする生徒指導を推進します。

《 自己形成：自己指導力と規範意識を育てる指導の推進 》

(3) 将来を見通したキャリア教育

一人一人の子どもが「自分のよさ」（持ち味・長所・得意・強み）を見付け、自らの能力・可能性として自覚し、その特性を伸ばすことによって、夢や将来を実現可能なものにしていくというプロセスを全市的に意識してキャリア教育や進路指導を推進し、それぞれの希望進路の実現（進路保障）にむけさらに取り組みます。

3 心身ともに健やかな子どもの育成（人権教育・いじめ防止・不登校の克服・食育・防災教育・道徳教育・ICT活用教育・プログラミング教育）

「自分の命を大切にすると共に生命を尊重する心や他者を思いやる心等、基本的人権の尊重を基盤とする一人一人を大切にした教育を進めること」を本市の学校教育の重点としています。

- （１） 豊かな人間性と社会性を育てる教育を基盤とします。
- （２） 健やかな体を育て安全意識を高める教育をより充実させます。
- （３） 社会の変化や現代的課題に対応する教育を推進します。
- （４） Society 5.0 社会に対応する情報教育（ICT活用教育）に積極的に取り組んでいきます。

4 特別支援教育の推進（思春期スクリーニング・個別の移行支援シート・特別支援教育コーディネーター）

教育と福祉の連携による切れ目のない児童生徒への支援の充実を目指すと共にすべての子どもが自己肯定感を持って生き生きと学べる環境をつくるため、特別支援の必要な幼児・児童・生徒の自立や社会参加、自己実現に向けた支援システム構築と主体的な活動や取組を支援します。また、実態に合った支援システムの改善を図り、より効果的かつ、持続可能な運営を目指します。

- （１） 障害に対する理解と発達障害を含む障害のある幼児・児童・生徒への指導支援を推進します。（「インクルーシブ教育システム」と「合理的配慮」を意識した指導支援を目指します。）
- （２） ICT を有効活用し特別支援教育においても、より個別最適化した学びの実現に向けて取り組みます。
- （３） 自己実現や社会参加を目指した就学前から就労に至るまでの一貫した特別支援教育を推進します。



5 就学前教育と小学校の連携

(認知能力・非認知能力の一体的な育成、保育所・幼稚園・認定こども園との連携)

幼児教育を充実させ、直接的かつ具体的な体験を通して感性や表現する力等を育み生きる力の基礎を養う教育を推進していきます。「認知能力」と特に近年注目されている「非認知能力」の一体的な育成に取り組みます。

平成 30 年度から施行された保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の趣旨に基づき、3つの幼児教育機関(保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園)と小学校の間で共有されることになった「認知能力」と「非認知能力」である「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を重視して就学前教育と小学校の連携を推進します。

【認知能力・非認知能力の育成・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- ①健康な心と体 ②自立心 ③協調性
- ④道徳性・規律意識の芽生え ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重
- ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現

家庭の理解と協力を得ながら、保育園・幼稚園・認定こども園との連携を通して、認知能力と非認知能力を一体的に育むと共に、就学におけ保幼小接続プログラムを有効に活用することによって「学びの基礎」を育てる教育の充実を図ります。

6 社会に開かれた教育課程の実現(地域とともにある学校づくり)

「教育のまち ふくちやま」という本市の教育風土の上に学校・家庭・地域が互いにつながりを深め、「参画」「協働」「支援」をキーワードに学校を支える組織と仕組みをゆるやかに醸成し、社会総がかりでの教育を実現していきます。

学校運営に関して、教育委員会及び校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民の学校運営への参画の促進や連携強化を進めることにより、学校と保護者、地域住民等と信頼関係を深め、目標やビジョン、課題等を共有し、一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組むため、学校運営協議会を設置し、社会総がかりでの教育の実現に向けたコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入を進めます。それによって地域とともにある学校運営(社会に開かれた教育課程の実現)を実践し、子どもたちの健全育成に向けた家庭と学校の連帯や地域の協力を基盤とした見守り等の児童生徒の安全・安心の確保、家庭と地域との連携によるキャリア教育等の新たな社会総がかりの教育の可能性を模索します。具体的には、学校評議員会等、学校の既存組織を再構築し、無理のない持続可能な組織としての「学校運営協議会」への移行を目指します。モデル対象学区での地域と学校の連携・協働体制の構築等の実践を全市に計画的に広げていきます。

◇ モデル対象地域 三和学区 夜久野学区 大江学区 川口学区 六人部学区

7 子どもの貧困、虐待問題への対応

「福知山市の子どもは、福知山市で育て上げる。」本市のすべての子どもたちの将来を見据え、その将来が生まれ育った環境によって左右されることのないよう、子ども政策室をはじめとする関係機関等との総合的な支援体制をさらに強化し、貧困や虐待から子どもたちを守り、健やかに育成される環境の整備を進めます。

すべての子どもに夢や将来につながる確かな学力を身に付けさせる事業や取組を推進します。

8 大学との連携（福知山公立大学・京都工芸繊維大学）

就学前から義務教育9年間へと切れ目のない一貫・連携した教育（シームレス学園構想）のその先を思い描ける環境づくりに取り組みます。北近畿では数少ない4年制大学が本市に2校（福知山公立大学、京都工芸繊維大学福知山キャンパス）あるということ。さらに学校のICT環境整備が急速に進む中、福知山公立大学に情報学部が新設されたという利点を生かし、GIGAスクール構想、プログラミング教育をはじめ、キャリア教育や総合的な学習の時間、学習ボランティア派遣等々、学習内の枠組みの中で市の推進する「知の拠点」整備事業を効果的に活用し、大学との連携を展開していきます。特に福知山公立大学情報学部の監修、連携による、その「強み」である「ラーニングアナリティクス・学習分析」を加えた福知山ならではの最先端のICT活用教育の実現にむけて取り組みます。

将来の学園都市、仮称：ICT環境整備によるグランドシームレス学園構想にむけて、ICTを効果的に活用し教育期間を貫く教育理念と連携の構築：就学前教育、義務教育、高等教育、大学教育の更なる充実に向けた新たな連携の模索に着手します。

9 魅力ある学校・園・学園づくりと教職員の資質能力の向上

校・園長のリーダーシップの下、教職員や多様な人材の専門性を生かし、複雑な学校課題の解決に取り組む、「チーム学校」としての組織的な指導体制を整備するとともに各校の特色を生かし魅力ある学校・園・学園づくりに取り組みます。

また、これからの教職員に求められる資質能力（教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力、専門職としての高度な知識・技能、総合的な人間力）の育成にむけ、効果的な研修やシステムの構築に取り組みます。

10 教職員の働き方改革

国をあげて「働き方改革」が進められている中、教職員の長時間勤務等が社会的に大きく取り上げられ、教員を志望する若者が減少し、人材の不足が深刻な課題となっています。

安定的な学校運営のために、時間外勤務の縮減と業務負担軽減に取り組んでいきます。

持続可能な学校組織（教職離れによる慢性的な人員不足からの脱却）の構築と限られた時間の中で最大限のパフォーマンスを発揮できる、心身共に元気な教職員を目指し、超過勤務の削減と学校事務の効率化を促進することで「働き方改革」の更なる推進に取り組みます。

11 小中一貫教育校制度（施設一体型）

夜久野学園（夜久野小・中学校）

夜久野学園は、京都府北部初の施設一体型小中一貫教育校
教育課程特例校として英会話コミュニケーション科を創設
9年間のゆるやかなつながりの中で、人と関わり、自分の思いを伝えようとする
子どもを育成しています。

三和学園（三和小・中学校）

三和ならではの自然や文化などの地域資源を生かし、郷土愛をはぐくむとと
もに、「人」とのつながりや「もの」との出会いなど体験活動を通してコミュ
ニケーション能力を高めていこうとしています。

大江学園（大江小・中学校）

キャリア教育と学力向上、特に施設一体型小中一貫教育校の強みを生かした専
科教育（小学校における教科担任制）を柱に、児童生徒が自らの可能性を見出し、
未来の姿をイメージしながら学ぶことのできる学園教育を目指します。

学校教育環境の整備（安心・安全な学校施設の長寿命化・快適な環境整備・ ICT活用、読書活動充実のための環境整備）

学校施設は、児童生徒等の学習・生活の場として、また豊かな人間性を育むため、安全・
安心で良好な教育環境として整備を進めることが重要です。また、地域コミュニティー
形成の場として避難所等として、多様な人々の利用に配慮したバリアフリー化など、
社会情勢の変化等を踏まえた環境整備を行っていきます。

「第3次福知山市子どもの読書活動推進計画」に基づき、市立図書館や学校図書館と
連携した読書活動を一層推進するために、環境の整備・充実にも取り組みます。

- 1 学校施設長寿命化計画に基づく計画的な改修の実施
- 2 快適な環境整備の推進（学校環境のユニバーサル化）
- 3 ICT活用、読書活動充実のための基盤整備



This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.



京都府 福知山市
福知山市教育委員会

〒620-8051 京都府福知山市字内記 13 番地の 1
教育委員会事務局

FAX 0773-24-4880

教育総務課	TEL 0773-24-7061
学校教育課	TEL 0773-24-7062
生涯学習課	TEL 0773-24-7064